

英語活動・英語教育研究班の取組

I 研究主題 「豊かにコミュニケーションができる児童生徒の育成」 ～ 伝え合う力を高める場の工夫を通して ～

II 主題設定理由

英語は国際共通語であり、近年アジア諸国においても小学校から英語教育に力を入れている。中央教育審議会外国語専門部会審議のまとめ（平成18年3月）では、「小学校の英語活動においては、①小学校の柔軟な適応力を活かすことによる英語力の向上、②グローバル化の進展への対応、③教育の機会均等の確保などの理由から小学校段階の英語教育を充実させる必要があること」が示された。また、中学校においても小学校での外国語活動を通じて、「聞くこと」「話すこと」についての一定の素地があることを踏まえ、「読むこと」「書くこと」を含めた4つの言語活動を充実させることの重要性が指摘された。

また、平成20年3月には、新学習指導要領が告示され、「外国語活動」が小学校高学年で必修となり、教育の機会均等や中学校との円滑な接続の観点から、外国語活動の目標や内容が示された。また、中学校の学習指導要領「外国語科」においては、1時間の授業時数の増加と4技能の統合化、外国語活動との関連などが示された。

これまで宮崎市の小学校では、総合的な学習の時間に国際理解教育の一環と位置付け、平成16年度から全小学校において英語活動に取り組み、英語活動の年間指導計画の作成や市から派遣される外国人講師（市内在住の外国人）とのチーム・ティーチングの在り方等について指導方法の工夫改善を行ってきた。これからの小学校における英語活動は、英語で積極的にコミュニケーションを図るための素地を身に付けさせることがねらいであり、中学校における英語教育への円滑な移行を視野に入れた指導の充実が求められる。

本研究班では、昨年度は小学校5・6年生の「英語活動」から中学校1年生の「英語科」への円滑な接続を考慮した年間指導計画の見直しや評価規準等を作成するなど理論面に重点を置いた研究を推進してきた。これを受けて本年度は、小学校における英語活動の授業実践並びに中学校の英語科の授業実践を通して、豊かにコミュニケーションができる児童生徒を育成するための小中一貫した指導の充実の在り方についての研究を行うこととした。

III 研究目標

伝え合う力を高める場の工夫を通して、豊かにコミュニケーションができる児童生徒の育成の在り方を究明する。

IV 研究仮説

小学校の英語活動を取り入れた中学校での英語科指導を行えば、円滑な移行が図られ、豊かにコミュニケーションができる児童生徒が育つであろう。

V 研究構想

研究主題 「豊かにコミュニケーションができる児童生徒の育成」
～ 伝え合う力を高める場の工夫を通して ～

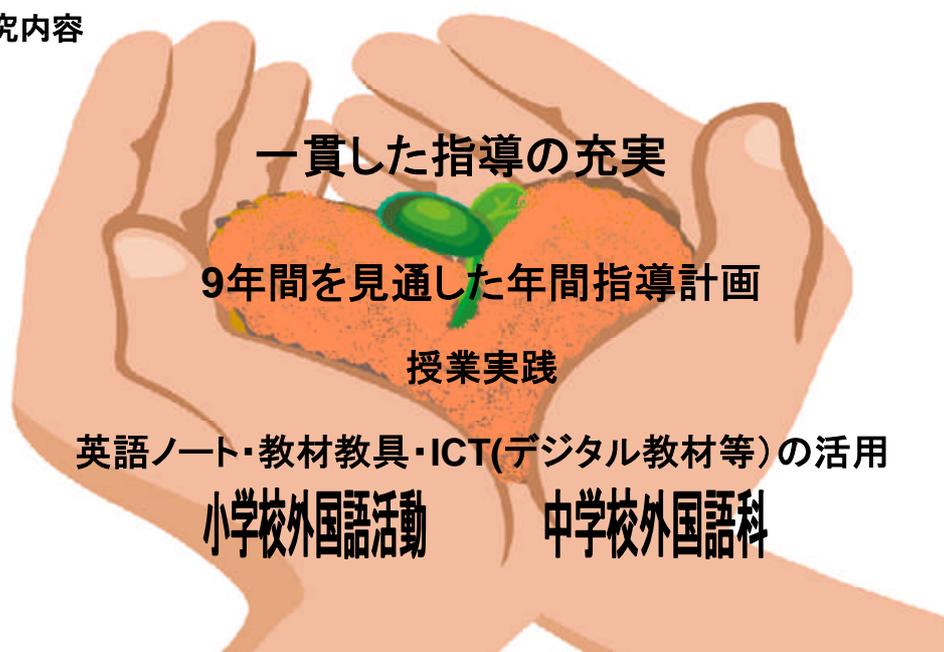
研究目標

伝え合う力を高める場の工夫を通して、豊かにコミュニケーションができる児童生徒の育成の在り方を究明する。

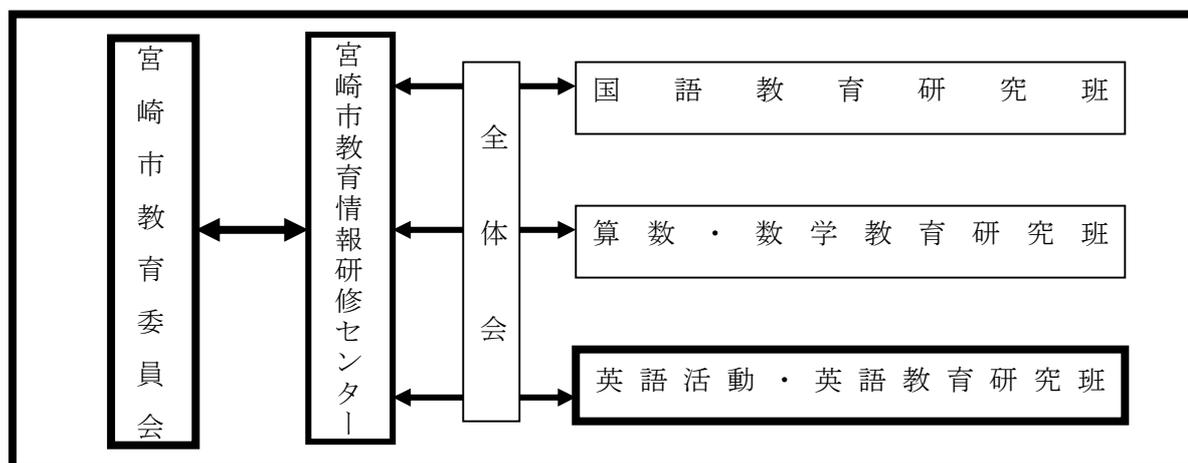
研究仮説

小学校の英語活動を取り入れた中学校での英語科指導を行えば、円滑な移行が図られ、豊かにコミュニケーションができる児童生徒が育つであろう。

研究内容



VI 研究組織



VII 研究内容

1 宮崎市の実態調査の実施および分析

平成16年度より宮崎市内の全小学校における英語活動(1・2年生は年間10時間程度、3～6年生は年間35時間)が始まって6年が経過しようとしている。平成20年の学習指導要領の改訂によって、外国語活動の目標を達成するための具体的な学習活動を提案したものである英語ノートの使用も本年度から始まった。

実際に小中一貫した指導を進めていく上で、学校でどのような成果や課題があるのか、その課題をどう解決していけばよいのかを本研究で提案していくために、小学校の教師(6年生担任)と中学校の英語教師を対象として平成21年7月に実態調査を行った。以下は実態調査の結果をまとめたものである。(対象:全小中学校)

(1) 英語活動への思い

ア 英語活動を通して求められる資質や能力

小学校の教師(6年生担任)は、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする関心・意欲・態度」「外国の言語や文化への興味・関心」「自分の思いや考えを積極的に伝えようとする態度」が重要であると考えていることが分かった。(表1)

中学校の英語教師は、「外国の言語や文化への興味・関心」「話を聞く態度」「人間関係を築く力」を育ててほしいと考えていることが分かった。(表2)

小中学校のどちらの教師も、コミュニケーション能力の素地の育成が大切であると考えていることが分かる。これらの思いを共有し、指導に活かすことが小中一貫した指導を円滑にしていくものとする。

イ 英語活動についての悩みや問題

英語活動を行っての悩みや問題は以下のようにあった。

【小学校】

- ・自分の英語力への不安
- ・英語専科教員の導入
- ・小中学校の指導内容の共有化

【中学校】

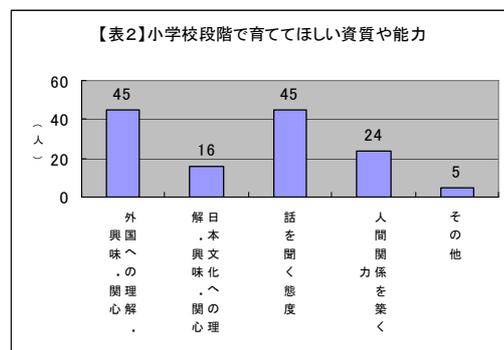
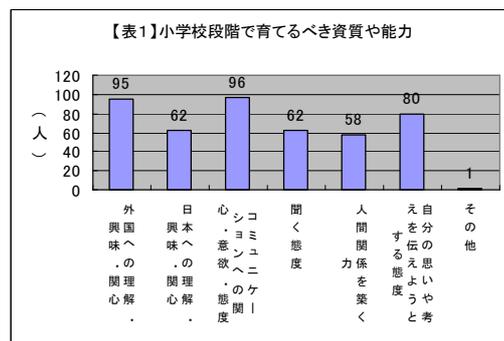
- ・英語に対する興味・関心の差
- ・小学校の指導の実態の把握不足
- ・小学校教師との研修の充実

上述のことから、小中学校が一貫した指導の充実を図りながら、英語教育に取り組んでいくことが、これらの悩みや問題解決の一助になるのではないかと考えた。

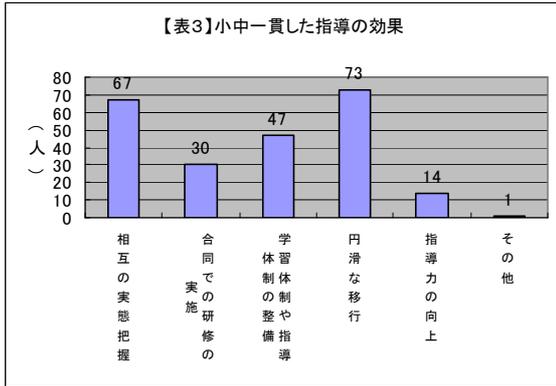
(2) 小中一貫した指導の充実

ア 小中一貫した指導の充実で期待される効果

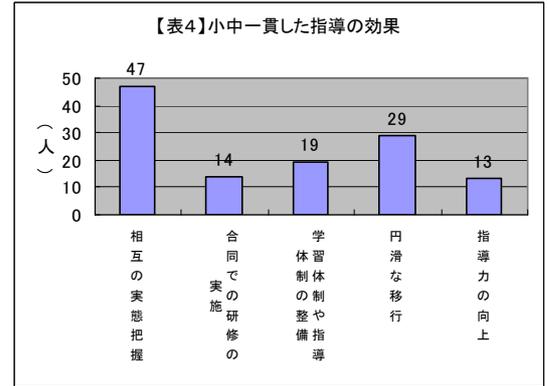
小中学校のどちらの教師も、「小中相互の実態把握」「中学校英語への円滑な移行」が、期待される児童生徒のよりよい姿として考えている。



【小学校】



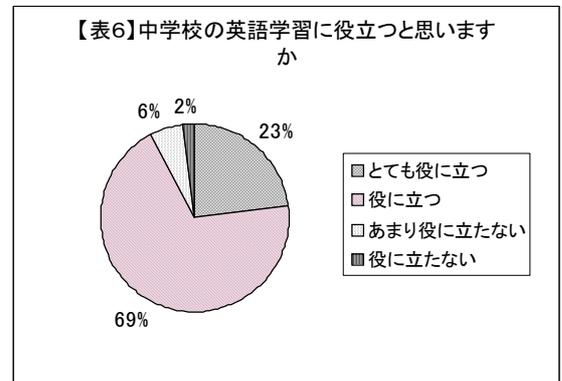
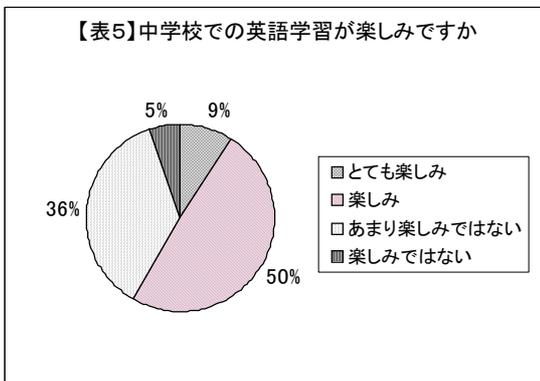
【中学校】



イ 児童生徒の意識調査

小中学校が一貫した指導の充実を図りながら、英語教育に取り組むことを、児童生徒が実際にどう捉えているかを調査した。

(ア) 小学校6年生の意識調査

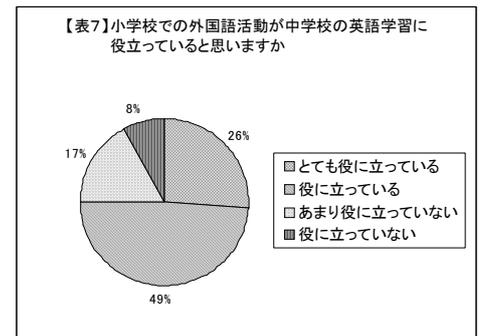


小学校で英語活動をしている児童は、中学校での英語学習に期待しているとともに、小学校での活動が役に立つと考えていることが分かる。(表5)(表6)

(イ) 中学校1年生の意識調査

中学校1年生の結果を見ると、75%の生徒が、小学校の英語活動が中学校の英語学習に役立っていると思っている。(表7)

中学校の英語学習に「とても役立っている」「役立っている」と答えた生徒は、下記のような場面でそう感じていることが分かった。



【「とても役立っている」「役立っている」と思ったのはどんなときですか (380人/504人中)】

380人の詳細な意見は下記のとおりである。

- 小学校で使っていた英語を中学校でも使っていたとき (321人/380人中)
- 小学校で聞いたり、言ったりしたことのある単語などが出てきたとき (268人/380人中)
- 中学校の先生の言っている英語が、なんとなく理解できたとき (243人/380人中)
- 外国の人に、はずかしがらずに話しかけてみようと思ったとき (152人/380人中)
- 間違ってもいいから、堂々と英語で話してみようと思ったとき (144人/380人中)

※ 対象生徒は抽出 504人 回答方法は複数回答

以上のことから、小学校での体験を多く取り入れた活動が、物おじせず思いや考えを伝えようとしたり、進んで人と関わろうとしたりする態度などのコミュニケーション能力の素地を養い、中学校での英語学習に役立っていると言える。

2 授業の実際

豊かにコミュニケーションができる児童生徒を育成するためには、小学校で体験した英語活動を中学校で活かすことが有効であると考えた。そこで、小学校の英語活動と中学校の英語学習をつなぐ1つの手立てとして、英語ノートの活用に注目した。

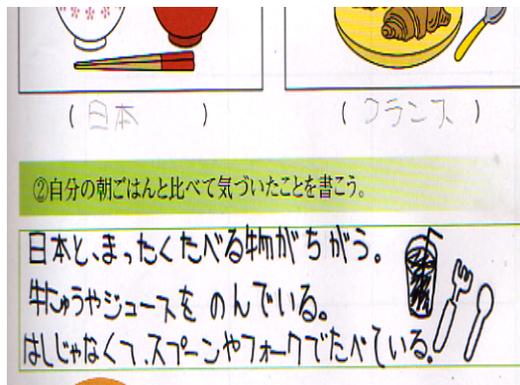
英語ノートには、中学校3年間で学習する内容が多く含まれているため、中学校でも授業の中で活用することが可能である。例えば、小学校5年生の英語活動において、英語ノート1 Lesson6の「外来語を知ろう」の内容は、中学校での Program5-③(1年)や Program10-①(2年)の内容に関連している。Lesson9の「ランチ・メニューを作ろう」の内容は、中学校での Program3-③(1年) / Program5-③(1年)に関連している。

そこで、小学校5年生の英語活動、中学校1年生・2年生の英語の授業で、英語ノートを活用することにより、児童生徒の伝え合う力を高める場の工夫を図った。

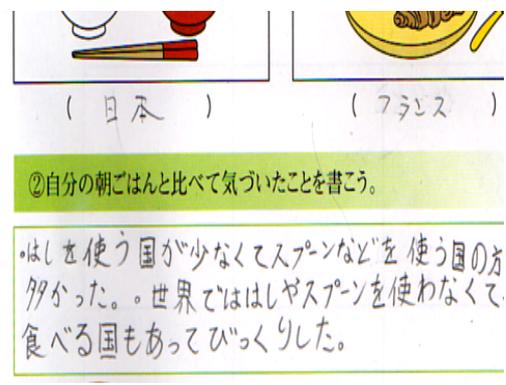
(1) 小学校5年生の英語活動

ア 英語ノートの活用

日本と外国の朝食の絵を見て、その違いについて気付いたことを書く場面で使用した。その際、実物の食事道具とあわせて見せることで、児童は外国の食事や文化への興味・関心を高め、国際理解への視野の広がりが見られた。また、英語ノートに記入することで考えがまとめやすくなり、自分の考えを友だちと伝え合い、認め合うことができた。英語ノートを活用することが、児童たちの知的好奇心を揺さぶる一つの材料になった。



【児童Aの感想】



【児童Bの感想】

イ 豊かにコミュニケーションができる児童生徒を育成するための手立て

児童の知的好奇心をコミュニケーションへの意欲につなげるために、児童の活動内容を3段階に設定した。第1段階は「知る」とし、英語ノートにある外国の食べ物を通して、外国への興味・関心をもたせた。第2段階は「考える」とし、デジタル教材をスクリーンで見せて国名を答える活動を行った。英語ノートには解答が記入されていないため、繰り返し答えることができ、理解を深めることができた。第3段階は「伝え合う」とし、英語ノートの絵をスクリーンで見せ、児童たち自身が食べ物



【クイズを出している児童の様子】

や国についての簡単なクイズを英語で出し合うことで、主体的・体験的なコミュニケーション活動を行うことができた。

ウ 成果

英語ノートをスクリーンに映すことで、児童は集中して活動できた。また、英語で出題したり答えたりするなど、豊かなコミュニケーション活動へと発展させることができた。これらの段階を経て、身に付けた表現を積極的に使おうとする児童が増えてきた。

【振り返りカードの一部】

振り返り
・カードだけではなく英語ノートなどを使った方が
分かりやすく楽しかったです。画面をつかったのは
とくにおもしろかったです。画面をつかった外国のごはん
は分かりやすかったです。

(2) 中学校1年生の授業

ア 小中一貫した指導の充実

中学校の指導において、小学校で身に付けた表現を活かす場を設定することにより、生徒の学習に対する自信と意欲を高めようと考えた。生徒たちは、“What time is it now?” “It’s ~.”という言語活動を小学校の英語活動で経験しているので、中学校で学習の幅を広げるために、小学校での経験を活かす活動が有効であると考えた。

イ 英語ノートの活用

英語ノートには、世界地図と、日本が朝8時のときに、世界の子どもが何をしているかを描いた絵が載っている。また、“What time is it now in Japan?” “It’s eight. I go to school at eight.”などの音声も聞くことができる。“What time do you ~?” “I ~ at (時間).”の表現を学習する導入の部分で、時間の尋ね方とその答え方及び本時の新出表現を聞きとらせるために英語ノートを使用した。



【英語ノートに書き込んでいる様子】

ウ 豊かにコミュニケーションができる児童生徒を育成するための手立て

まず、英語ノートの世界地図の内容へつなげるために、導入で生徒に地球儀を見せ、時差を意識させた。生徒は興味・関心をもって教師の英語を聞きとろうとし、口頭練習を通して自信を深めていった。さらに、“What time do you ~?”を使った会話を楽しむための場面設定として、外国の子どもになったつもりで一日の流れをインタビューし合う活動を取り入れた。生徒は外国の子どもの生活と自分たちの生活の違いに関心をもち、インタビュー活動にも積極的に取り組むことができた。



【インタビュー活動の様子】

エ 成果

導入部分で英語ノートを使用したことで、いつもより自信をもって発表できた生徒が多かった。外国の時間やその地域の子供の生活に触れたことで、外国への興味・関心ももつことができた。

【生徒へのアンケート】英語ノートを使った授業は、どんなところがよかったですか。

絵や時計などでかっけてる英語ノートにリスニングもして書きこみやすかった。(小学生は、字を書くのが難しいから)

(3) 中学校2年生の授業

ア 小中一貫した指導の充実

Program6-①で扱う“want to do～”の文型は、小学校の英語活動の職業というトピックの中で扱う“I want to be～”と関連付けて指導できる内容である。生徒は、小学校で「私は～になりたい」という表現に慣れ親しんでいる。一方、中学校では職業の言い方を学習する機会は少なく、小学校で経験した職業の言い方を中学校の学習に取り入れることは、生徒の語彙力の向上にも有効である。また、“want to be～”と“want to do～”の文型について、中学校での“want to～”という学習の中でより理解を深めることができる。



【スクリーンで提示した英語ノート】

イ 英語ノートの活用

授業の導入で、英語ノート2の「いろいろな職業の言い方を知ろう」の職業20種をスクリーンに映し、英語での職業の言い方や「私は～になりたい」という表現を全体で口頭練習した。英語ノートの絵は分かりやすく、それをスクリーンで見せることで視覚的にも興味・関心をもたせた。また、英語ではあまりなじみのない職業の言い方に触れることで、知的好奇心を揺さぶることができた。ワークシートにも英語ノートの絵を利用することで生徒たちは積極的にコミュニケーション活動を行うことができた。



【導入の様子】

ウ 豊かにコミュニケーションができる児童生徒を育成するための手立て

導入では、英語ノートを活用した“I want to be a～”の口頭練習を、学習活動ではコミュニケーション活動を設定した。生徒たちは普段の進路学習で様々な職業を意識し始める時期である。生徒たちに視覚的に興味・関心をもたせながら、その後のコミュニケーション活動へと意欲をつなげることができた。



【インタビュー活動の様子】

エ 成果

英語ノートの絵をスクリーンに映し、ワークシートにも利用することで、生徒の知的好奇心を揺さぶり、興味・関心をもたせることができた。また、生徒のコミュニケーション活動に対する意欲も高めることができた。この実践から、英語ノートは中学生にとっても親しみやすい構成になっており、コミュニケーション活動を活発にするためにも有効で、楽しく活動することを通してよりよい人間関係を築くことの大切さも学ぶことができた。

【生徒へのアンケート】

1 小学校での英語活動が中学校の授業でどのように役立つと思いますか。

私が中1の時 ABCD... めめからず、英語の授業を
うけていて先生が何言っているのかぜんぜんわから
なから、小学校から、やっていた方が役に立つと
思います。

2 今日の授業を振り返っての感想を書いてください。

とても分かりやすかったです。
単語がよく覚えらよたと思う。

オ 小学校・中学校指導内容関連表（英語ノートを活用する場合）

【関連表 1】

		4月	5月	6月	
小学5年	单元名	世界のあいさつ	自己紹介をしよう	ジェスチャーをしよう	
	主な表現	A: What's your name? B: My name is ~. Nice to meet you. A: Nice to meet you too.	A: When is your birthday? B: It's June 12th. A: Do you like ~? B: Yes, I do. /No, I don't. A: What sport do you like? B: I like ~ .	A: How are you? B: I'm happy.	
小学6年	单元名	自己紹介をしよう	アルファベットで遊ぼう① (大文字)	家族や友だちの紹介をしよう	
	主な表現	A: What's your name? B: My name is ~. Nice to meet you. A: Nice to meet you too. A: When is your birthday? B: It's ~. A: What color / sport / food do you like? B: I like ~.	A: What's this? B: It's ~ A~Z	A: Hello. This is my sister. B: Who is this? A: It's my ~.	
中学1年	单元名	①英語らしく言ってみよう。 ②アルファベットに慣れよう。 ③アルファベットが表す音を聞いてみよう。 ④どんどん英語を使ってみよう。	Program 1 パーティーで英語を話す。	Program 2 アンディー、武史の寮へ行く。 Let's communicate①	Program 3 シンガポールからのお客さん
	主な表現	●身の回りの英単語 ●アルファベット ●教室英語 Good morning, Mr. Brown. How are you? I'm fine, thank you. Goodbye, everyone. Nice to meet you, Andy. Stand up. Sit down. Open [Close] your textbook. Repeat after me. Look at the board. Raise your hand. など	●基本文 I am Yuki. I'm Andy. Are you a student too? This is Ken. ●通話・重要表現 Nice to meet you.	●基本文 Is this / that your guitar? Yes, it is. No, it isn't. He's a student. She's a student too. What's this? ●通話・重要表現 Oh, really? ●例文 A: It's 9:00 a.m. in Japan now. B: What time is it in New York? B: It's 7:00 p.m.	●基本文 I play soccer. Do you speak Japanese? Yes, I do. No, I don't. What do you study? ●通話・重要表現 at home / kind of ~

【関連表 2】

単元	文法事項	英語ノート関連
①英語らしく言ってみよう。 ②アルファベットに慣れよう。 ③アルファベットが表す音を聞いてみよう。 ④どんどん英語を使ってみよう。		英語ノート1 (P4~5) 英語ノート2 (P4~7)
Program 1	be動詞 1 I am ~. be動詞疑問文・否定文 1 You are ~ / Are you~? be動詞 2 This is ~.	英語ノート1 (P7) 英語ノート1 (P9)
Program 2	be動詞疑問文・否定文 2 Is this ~? / Is that ~? be動詞 3 He's (=He is) ~. / She's (=She is) ~. 疑問詞what What's (=What is) this ?	英語ノート1 (P48) 英語ノート1 (P49)
Program 4	複数形 I have two brothers. 数をたずねる疑問文 How many brothers do you have? 疑問詞who Who's (=Who is) that boy?	英語ノート1 (P24) 英語ノート1 (P50~51) 英語ノート1 (P53) 英語ノート1 (P30) 英語ノート1 (P33)
Program 5	命令文 Speak English. 疑問詞which Which bag is yours?	英語ノート1 (P36) 英語ノート1 (P38~P39) 英語ノート2 (P50) 英語ノート2 (P52~P53)

【英語ノートを使った授業の流れ (中学1年生)】

単元名	Program1 パーティで英語を話す。
単元のねらい	場面設定の中で英語で挨拶や自己紹介をすることで英語を使う喜びを味あわせるとともに国際語である英語の学習に対する関心・意欲を高める。
評価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度 うなずいたり、メモを取るなど、相手の話に関心を持っている。 表現の能力 聞かれたことに対して、適切に応答することができる。 理解の能力 言語や文化についての知識・理解
英語ノート	英語ノート1 P6~9 Lesson1 世界のこんにちはを知ろう

	学習活動	活動内容	英語ノートとの関連	予想される語彙・センテンス
導入	Greeting 英語ノート1 Let's Activity 自分の名刺を作ろう		英語ノート1P7	Good morning. / Hello. How are you? I'm fine, thank you. etc.
展開	新文型の導入 I am ○○. = I'm ○○. 英語ノート1 Let's activity 2 みんなと名刺を交換しよう。		英語ノート1P9	I am ○○. I'm ○○. Nice to meet you. Nice to meet you too.
終末	本時のまとめをする。 Greeting			Good by everyone. Good by ○○.

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- ① 小学校と中学校が一貫した指導の充実を図ることにより、児童生徒が英語に慣れ親しむことができた。
- ② 小学校6年生と中学校1年生の英語活動に対する意識調査、小学校の教師（6年生担任）と中学校の英語教師への実態調査を実施し、小中学校の年間指導計画をつなぐことができた。
- ③ 実態調査の結果を受けて、「指導の関連表」や「指導展開例」を作成したことで、小学校と中学校の接続が一層円滑に行えるようになった。
- ④ 英語ノートを活用した伝え合う場の工夫を行ったことで、生徒は自信をもって豊かに表現しようとしたり、よりよい人間関係を築いたりすることの大切さに気付くことができた。

2 課題

- ① 英語ノートに限らず、小中一貫の学び・指導の流れを切らない教材を共有し、有効に活用していく必要がある。
- ② 子どもの変容を見届けるための評価の活かし方を究明することが必要である。
- ③ 英語嫌いをつくらないための小中一貫した指導の在り方を今後も究明していく必要がある。

<引用・参考文献>

「小学校学習指導要領」	文部科学省
「中学校学習指導要領」	文部科学省
「小学校学習指導要領解説・外国語活動編」	文部科学省
「中学校学習指導要領解説・外国語編」	文部科学省
「小学校外国語活動研修ガイドブック」	文部科学省
「小学校新英語の到達目標と指導のプロセス」	明治図書
「小学校学習指導要領の解説と展開；外国語活動編」	教育出版
「英語ノート1、2、デジタル教材」	文部科学省
「宮崎市小学校英語活動年間指導計画」	宮崎市（平成14年度版）
「小学校における英語教育について」	中央教育審議会外国語審議部会

<研究同人>

所長	湯元 安男		
指導主事	杉山 茂	指導主事	永野 裕一
研究員	谷上 勝盛（宮崎西中学校）	西村 さとみ（生目台西小学校）	
	下川 奈緒子（宮崎東中学校）	小川 馨（本郷中学校）	
	野口 雅代（小松台小学校）	谷口 至（田野小学校）	